

# 1章 正の数・負の数 学習プリント①

## 1節 正の数・負の数

### ① 0より小さい数

#### ポイントI

①  … 0より大きい数（今まで使ってきた数）

例) 2を  と表すことがあるが、同じ意味である。

これを  と読み、「+」を  という。

②  … 0より小さい数（初登場）

例) 0より2小さい数を  と表す。



正の数・負の数を攻略しよう

これを  と読み、「-」を  という。

Q. 0は正の数？負の数？ ⇒ A.

例題1 次の数を、正の符号、負の符号を使って表しなさい。

(1) 0より14小さい数

(2) 0より  $\frac{4}{5}$  大きい数

(3) 0より0.01大きい数

(4) 0より  $\frac{7}{8}$  小さい数

#### ポイントII

人や物の数を数えるとき、自然と使う数だからと覚えればいいか

…, -3, -2, -1, 0, +1, +2, +3, …

正の整数のことを  ともいう。

※ 0は  に含まれるが、 には含まれない。

例題2 下の数の中から、次の数を選びなさい。

$-1, +0.2, +6, -\frac{2}{3}, 0, 2, -3.7$

(1) 負の数

(2) 整数

(3) 自然数

# 1章 正の数・負の数 学習プリント①解答

## 1節 正の数・負の数

### ① 0より小さい数

#### ポイントI

① 正の数 … 0より大きい数（今まで使ってきた数）

「かず」ではなく、  
「すう」と読む。

例) 2を  $+2$  と表すことがあるが、同じ意味である。

これを  $プラス2$  と読み、「+」を **正の符号** という。

② 負の数 … 0より小さい数（初登場）

例) 0より2小さい数を  $-2$  と表す。



これを  $マイナス2$  と読み、「-」を **負の符号** という。

Q. 0は正の数？負の数？ ⇒ A. 正の数でも負の数でもない

#### 例題1

解答 (1)  $-14$  (2)  $+\frac{4}{5}$  (3)  $+0.01$  (4)  $-\frac{7}{8}$

#### ポイントII

整数

負の整数

…, -3, -2, -1, 0, +1, +2, +3, …

正の整数

人々の数を数えるとき、自然と  
使う数だからと覚えればいいか

正の整数のことを **自然数** ともいう。

※ 0は **整数** に含まれるが、**自然数** には含まれない。

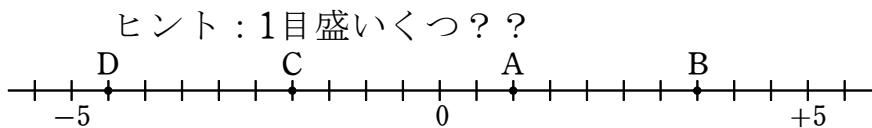
#### 例題2

解答 (1)  $-1, -\frac{2}{3}, -3.7$  (2)  $-1, +6, 0, 2$  (3)  $+6, 2$

# 1章 正の数・負の数学習プリント②

## ② 正の数・負の数で量を表すこと

例題 下の数直線で、点 A ~ D の表す数をいいなさい。



小学校の  
ときは、  
左端が  
0だったね！

A :      B :      C :      D :

### ポイントI (反対の性質や基準との差)

①正の数・負の数は、反対の性質を表すことができる。

例) 1000円の収入を +1000円と表すと、

500円の支出は  円と表せる。



②正の数・負の数は、基準との差を表すことができる。

例) 高井先生は毎日3kmのジョギングをしている。

調子が良くて5km走った日は、  kmと表せる。

体調が優れず2kmしか走らなかつた日は、  kmと表せる。

問1 次の数量を、正の符号、負の符号を使って表しなさい。

- (1) 「100円の収入」を +100円と表すとき 「300円の支出」
- (2) 「1時間前」を -1時間と表すとき 「3時間後」
- (3) 「北へ4km」を +4kmと表すとき 「南へ6km」

問2

右の表は、4人の生徒 A ~ D の数学のテストの得点と、クラスの平均80点とのちがいを示したものである。表を完成させなさい。

生徒	A	B	C	D
得点(点)	85	82		
ちがい(点)		+2	0	-6

### ポイントII (ひねくれ言葉)

「5個少ない」を「多い」を使って表すと、  個多いとなる！

«ひねくれ言葉の作り方»

①言葉の意味を反対にする。 ②符号を反対にする。

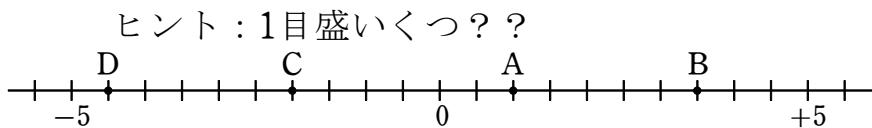
問3 [ ] 内のことばを使って、次の数量を表しなさい。

- (1) 5大きい [小さい]
- (2) 7kg軽い [重い]
- (3) 100m<sup>2</sup>狭い [広い]
- (4) 2℃上がる [下がる]

# 1章 正の数・負の数学習プリント②解答

## ② 正の数・負の数で量を表すこと

例題 下の数直線で、点 A ~ D の表す数をいいなさい。



解答 A +1 B +3.5 C -2 D -4.5

小学校の  
ときは、  
左端が  
0だったね！

### ポイントI (反対の性質や基準との差)

①正の数・負の数は、反対の性質を表すことができる。

例) 1000円の収入を +1000円と表すと、

500円の支出は -500 円と表せる。



②正の数・負の数は、基準との差を表すことができる。

例) 高井先生は毎日3kmのジョギングをしている。

調子が良くて5km走った日は、 +2 kmと表せる。

体調が優れず2kmしか走らなかつた日は、 -1 kmと表せる。

### 問1

解答 (1) -300円 (2) +3時間 (3) -6km

### 問2

生徒	A	B	C	D
得点(点)	85	82	80	74
ちがい(点)	+5	+2	0	-6

### ポイントII (ひねくれ言葉)

「5個少ない」を「多い」を使って表すと、 -5 個多いとなる！

«ひねくれ言葉の作り方»

①言葉の意味を反対にする。 ②符号を反対にする。

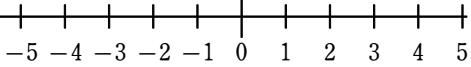
### 問3

解答 (1) -5小さい (2) -7kg重い (3) -100m<sup>2</sup>広い (4) -2℃下がる

# 1章 正の数・負の数学習プリント③

## ③ 絶対値と数の大小

### ポイント I



…数直線上での0からの距離

絶対値の簡単な求め方 ⇒

「絶対値」と書くのは間違い。気をつけて！

★正の数は、絶対値が大きいほど数が

☆負の数は、絶対値が大きいほど数が

それだけでいいの！？

Q. 0の絶対値は？ ⇒

問1 次の2つの数のうち、①大きい方の数と、②絶対値が大きい方の数をいいなさい。

(1)  $-6$  と  $+5$

① ②

(2)  $-10$  と  $-12$

① ②

問2 下の数の中から、次の数を選びなさい。

$$-3, +2.5, 0, -\frac{5}{2}, -0.1, +\frac{16}{5}$$

(1) もっとも小さい数

(2) 絶対値がもっとも大きい数

(3) 絶対値がもっとも小さい数

(4) 絶対値が等しい2つの数

### ポイント II

数の大きさを比べるとき、を使う。

小学校のときにやったの覚えてる？

例)  $2 \square 3, -2 \square -3$

豆知識 「>」…, 「<」…と読む。

問3 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

(1)  $-3, +0.7$

(2)  $-0.01, -0.1$

(3)  $-\frac{4}{5}, -\frac{3}{5}$

(4)  $-\frac{1}{3}, -\frac{5}{6}$

(5)  $-6, +4, -2$  ヒント：顔文字 (>.<) 禁止

# 1章 正の数・負の数学習プリント③解答

## ③ 絶対値と数の大小

### ポイント I

絶対値の簡単な求め方 ⇒ 符号を取るだけ

★正の数は、絶対値が大きいほど数が 大きい

☆負の数は、絶対値が大きいほど数が 小さい

Q. 0 の絶対値は？ ⇒ 0

「絶対値」と書くのは間違い。気をつけて！

それだけでいいの！？

### 問1

- 解答 (1) ① +5 ② -6 (2) ① -10 ② -12

### 問2

- 解答 (1) -3 (2)  $+\frac{16}{5}$  (3) 0 (4) +2.5 と  $-\frac{5}{2}$

### ポイント II

数の大きさを比べるとき、 不等号 を使う。

例)  $2 < 3$ ,  $-2 > -3$

豆知識 「>」 … 大なり, 「<」 … 小なり と読む。

小学校のときにやったの覚えてる？

### 問3

- 解答 (1)  $-3 < +0.7$  (2)  $-0.01 > -0.1$  (3)  $-\frac{4}{5} < -\frac{3}{5}$  (4)  $-\frac{1}{3} > -\frac{5}{6}$   
(5)  $-6 < -2 < +4$

# 1章 正の数・負の数学習プリント④

## 2節 正の数・負の数の計算

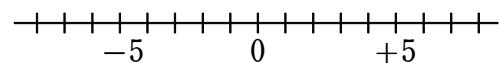
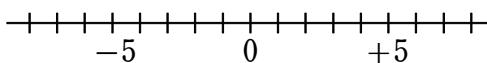
### ① 正の数・負の数の加法, 減法

#### ポイントI

たし算のことを  といい, その結果を  という。

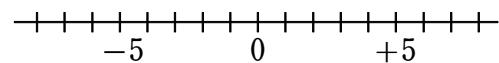
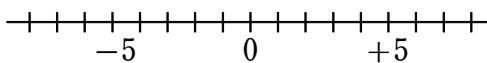
例題1 (+) + (+) 数直線を利用し, 次の計算をしなさい。

(1)  $(+3) + (+2)$  (2)  $(+2) + (+5)$



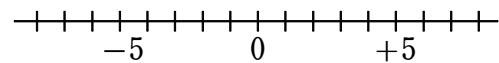
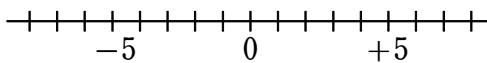
例題2 (-) + (-) 数直線を利用し, 次の計算をしなさい。

(1)  $(-3) + (-5)$  (2)  $(-5) + (-1)$



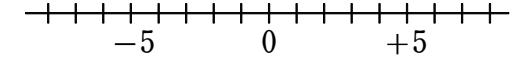
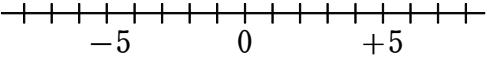
例題3 (-) + (+) 数直線を利用し, 次の計算をしなさい。

(1)  $(-3) + (+2)$  (2)  $(-4) + (+7)$



例題4 (+) + (-) 数直線を利用し, 次の計算をしなさい。

(1)  $(+3) + (-6)$  (2)  $(+8) + (-4)$



《わかったこと》

★正の数どうしの和は, いつも  になる。

★負の数どうしの和は, いつも  になる。

☆符号が異なる数の和は, 絶対値の  方の符号となる。

# 1章 正の数・負の数学習プリント④解答

## 2節 正の数・負の数の計算

### ① 正の数・負の数の加法, 減法

#### ポイント I

たし算のことを **加法** といい, その結果を **和** という。

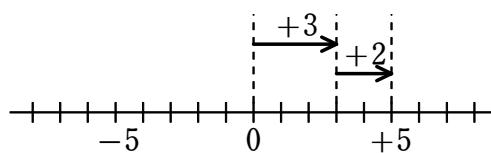
(解説)

「たす」 = 「加える」 という意味。「和」は小学校でも出てきたよね。

#### 例題1 $(+)+(+)$

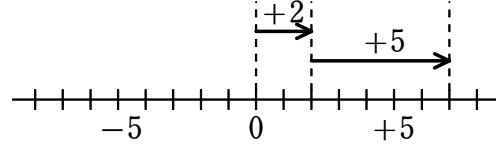
(解説)

(1)



$$\text{上の図から } (+3) + (+2) = +5$$

(2)

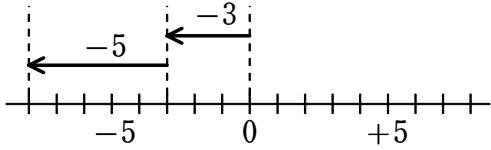


$$\text{上の図から } (+2) + (+5) = +7$$

#### 例題2 $(-)+(-)$

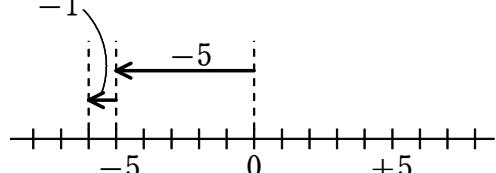
(解説)

(1)



$$\text{上の図から } (-3) + (-5) = -8$$

(2)

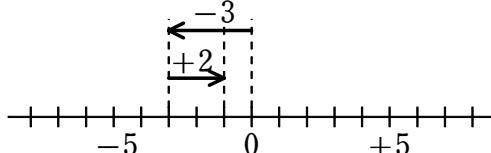


$$\text{上の図から } (-5) + (-1) = -6$$

#### 例題3 $(-)+(+)$

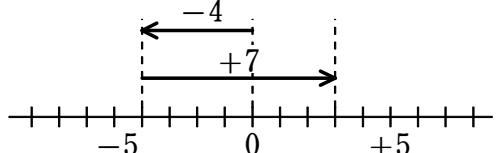
(解説)

(1)



$$\text{上の図から } (-3) + (+2) = -1$$

(2)



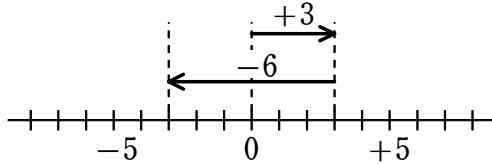
$$\text{上の図から } (-4) + (+7) = +3$$

裏面へ続く…

#### 例題4 (+) + (-)

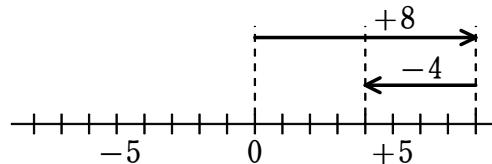
解説

(1)



$$\text{上の図から } (+3) + (-6) = -3$$

(2)



$$\text{上の図から } (+8) + (-4) = +4$$

《わかったこと》

★正の数どうしの和は、いつも **正の数** になる。

★負の数どうしの和は、いつも **負の数** になる。

☆符号が異なる数の和は、絶対値の **大きい** 方の符号となる。

解説

次回の学習プリント⑤につながるので、きとんとおさえておこう。